

# 京都教区時報

Home Page http://www.kyoto.catholic.jp 4345

2頁～4頁 済州教区 玄師・金師からのメッセージ

6頁 希望の家 新施設 祝別式

発行 京都司教区  
責任者 村上透磨  
京都市中京区

河原町通三条上る  
京都教区広報委員会  
TEL 075-211-3468  
FAX 075-211-4345

点訳版「京都教区時報」〈無料〉  
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。  
TEL・FAX 0794-31-8601



## 生きる信仰

私たちは信仰によって、自分の生活に意味を、人生に目的を、世界の歴史に方向付けを見出します。キリスト者は単に、カトリック教会に所属し、その教えや価値観にただぶらさがって足を地につけずに歩むではありません。キリスト教信仰は、各自が1回限りの人生において、キリストのうちに見出す「解放と自由」という救いの体験を通して過去の私と現在を紡ぎ、人生を意味のある物語に統合してくれるのです。

しかも、キリスト教信仰は、人にこの世で他者のために生き、社会を福音化する努力を続けるように促しながらも、生きることの希望の根拠がこの世界を超えたものにあることを教えてくれます。したがって、どんな困難に出遭っても現実を受け入れ、最終的には悪からも、死からも解放されるという「約束」を信じ、そこから生きる力をくみ取るのです。果たして、今の私たちの信仰は、死を迎える時でさえ落胆することなく、愛といのちの源である父に、自分を穏やかに委ねる覚悟を備えているでしょうか。

(2011年司教年頭書簡より)

9  
2011

## 京都教区・濟州教区姉妹教区交流部

2011年8月号で紹介しました、トマ

ス・アクイナス玄文権(ヒョン・ムンクァン)師とペトロ金碩柱(キム・ソクジュ)師の、ミサ中でのお話を、以下にご紹介します。

2011年6月12日

聖靈降臨大祝日を迎えて（伊勢教会）

濟州教区司祭 玄 文 権

イエス様に賛美！



京都教区と姉妹  
縁組を結んでいる  
濟州教区 玄 文 権  
トマス・アクイナ  
ス神父と申します。  
説教の初めに、

今年3月に起きた

東日本大震災で犠牲になられた多くの  
方々の靈魂が、主の慈しみと哀れみに  
よって永遠の安息が与えられますよう、  
この御ミサのなかでお祈りいたします。  
京都教区のご招待により本日この場所  
で皆様と一緒に、御ミサを捧げるこ  
とを大変嬉しく思います。招いて下さった  
大塚司教様と京都教区に感謝いたしま

す。国と言葉は異なりますが、同じ信仰  
をもつてこの場に参加できるよう導いて  
下さった神に感謝いたします。  
使徒が宣言した福音を言語と民族が違  
う人々が分かり合えた聖靈降臨の出来事  
を記念する大祝日を迎えて、今日の御ミ  
サの中で、私たちが民族も國も違うけ  
ども、共に主イエスの福音と平和を、靈  
のお恵みによって、分かち合えること  
を、神に感謝いたしましょう。

私は、濟州教区で「家庭司牧委員会」

と「聖召局」（召命に関する司牧）を担  
当しております。家庭司牧委員会では、  
結婚を通して家庭生活をする信者者が聖  
家族として生活出来るように、司牧的に  
手助けし、「聖召局」では将来に司祭に  
なろうとする志願者達と神学生の指導を  
担当しております。

私は、この二つの活動は別個のもので  
ないことを、私自身の過去を振り返ると  
よく分かります。私の故郷は濟州島の最  
も東にある城山浦（ソンサンボ）です。濟  
州島で一番の名所、観光地である「日  
出峯」（イルチユルボン）がある地域で  
す。現在は世界自然遺産として指定され  
毎年大勢の観光客が訪ねて来る、風光明  
媚なところです。すでに濟州島を旅行な  
さった方は行かれたと思いますが、いつ  
か濟州島を観光する際には是非訪問され  
るようお勧めいたします。

私が幼いころ暮らしていたこの故郷は

景観が良い所ですが、宗教的には濟州島  
の地域の中でもカトリック信者が一番少  
ない所でした。

私の両親は母親だけが信者でしたが、  
父親が洗礼を受けたのは、結婚をして7  
年後に私が生まれたからだそうです。私  
が生まれ、父は神様に感謝をして、教会  
で洗礼を受けました。その後、3人の子  
供にも恵まれました。

その時、父は長男を教区の司祭に、長  
女はシスターに、末っ子は修道会の修道  
士になつて欲しいと願つて切に神に祈つ  
たそうです。けれども、今は私と弟が司  
祭になり、妹はお祈りが届かずシスター  
になれませんでした。



嵐山にて



天竜寺にて

しかし、今考えて見ると、テレビよりも家族が一緒にお祈りをしたお陰で、私は司祭になれたと思い、両親に感謝をしております。所属教会の多くの信者達に教会で会う度に、「将来は必ず司祭になりなさい」と励ましたのも同じ言葉を繰り返し言わされましたので、私自身も将来は神父になろうと決心しました。年を重ねて思うことは、両親が注いでくれた大きな愛情に感謝すると同時に、息子が司祭になるよう神に祈りつつ、困難な家庭環境の中でも上級学校に進学させ、子供達が神の存在に気づき、神のみ胸に抱かれて生きるよう育ててくれました。両親がいたからこそ、私がこの場にいるのです。

私が神学生の時に、両親はミカンの農作をしていました。辛い農作業をしながらも、我が子のために祈ることを怠りません。両親はミカンの収穫のときには、ミカン一つひとつを口ざりオ代わりにして祈りを

す。しかし、今考えて見ると、テレビよりも家族が一緒にお祈りをしたお陰で、私は司祭になれたと思い、両親に感謝をしております。所属教会の多くの信者達に教会で会う度に、「将来は必ず司祭になりなさい」と励ましたのも同じ言葉を繰り返し言わされましたので、私自身も将来は神父になろうと決心しました。

司祭になつて一番多く質問されるのは、「なぜ神父になりましたか?」です。この質問に答えるのはそう簡単ではありません。それに、この質問をなさる方は、私からとてもたいそうな返事を聞くたい気持ちがあるようです。「神様の召命を受け司祭になった」「人生の意味を悟り神様のみ旨に従うため司祭になった」「神様に出会い聖母が現れて司祭として呼ばれたから、司祭になった」「この世を救うため司祭になった」「我を捨て主のため生き、貧しい者のために司祭になつた」などです。

しかし、私が司祭になつたのは、主の御声を聞いたからではありません。主を目に見たこともなく、夢に現れたこともありません。それに、とてつもない理想的の為でもありません。ひたすら、両親のお祈りがありました。家族が一緒に祈りました。幼い頃、教会の中だけで遊びました。司祭の傍で侍者をしました。所属教会の多くの信者達の励ましとお祈りがありました。見えない神様は私に、見えないようして他人の祈りを通して導いてくださいました。神様がなさったことは偉大なことではなく、平凡なことでした。私は福音の中で、「パン種」の喩えと「からし種」の喩えの、み言葉がとても好きです。パンを作る何でもないコウボ菌と、非常に小さい物であるが、後で沢

捧げてくれたのでした。

司祭になつて一番多く質問されること

山の鳥達が休めるからし種の喩えが大好きです。

イエスは、神の国はそのように、小さく、ゆっくり、見えないように、偉大なものではなく、多くの者に少しの休息を与える「からしの木」のように成長すると言われています。

今日の聖靈降臨の大祝日に、主は全ての人々に聖靈を注ぎ、働かせて、平和を与えてくださいます。主の聖靈は、我々の心を熱いものにし、祈らせ、勇敢に神の言葉を伝えるよう働きかけます。家庭の中で始まつた小さな祈りは、聖靈の導きによって始まります。その祈りは、小さな「からしの種」です。ですが、聖靈と共に祈る祈りは大きな実を結びます。聖靈は、信仰の情熱と勇気を持たせて下さり、平和を与えてくれます。まるで弟子達が恐れて隠れていたのに、聖靈の働きによって町に出て行き、主の福音を宣布する勇気を持つたように。

今日私たちは、もう一度聖靈に向かって、私達の心が主のため情熱を持つように、主に向かって祈るように、私達が家族のために祈るよう、京都教区とこの教会に、豊かな司祭召命の種が蒔かれるお恵みが与えられ、受け入れられるように祈りましょう。

「聖靈、来て下さい。主の光、その光が天からありますように。アーメン。」

聖靈降臨の大祝日（高野教会）

濟州教区司祭 金 碩柱

イエス様に賛美！



はじめまして  
皆様にお会い  
出来ましてとても  
嬉しいです。私は

金碩柱神父です。1995年に司祭叙階を受けて、今年で17年目の司祭生活になります。

司祭になつた時、私は25歳でした。人生の経験が短い私ですが、司祭聖召（召命）は多くの変化を私にもたらしました。特に日本と言う国は、私の司祭聖召に重要な影響をもたらしました。

私が幼少の頃は、我が家は他人が羨むほど裕福な家庭でした。しかし、父親の事業の失敗で我が家は一瞬にして転落をした傷だらけの家庭に変わつてしまいました。両親は経済的な困難を克服しようと血のにじむ努力をしましたが、以前の生活に戻ることは出来ませんでした。そのころ私は司祭聖召を志願しましたが、いくら高貴な道の選択であっても、家庭の平和がなくては、その道は苦痛を伴うものでした。何年間かの苦しみを耐え

懸命に働き、生活苦をしのぎました。そのお陰で我が家は、再び笑顔を取り戻すことができました。日本は、家族の別れと言う辛い体験をした我が家に、新しい出発と言う希望の芽を育ててくれた所です。だから私にとって日本という国は、家族のような心が安らぐ所であります。

去る3月、東日本大震災によつて希望を失つた方々の姿を考えると胸が痛みますが、私が希望を探したように、被災者の方々が一日でも早く希望の光を探せるよう祈ります。

親愛なる兄弟・姉妹の皆様、私は司祭叙階のときに、大切なことに気が付きました。私は全ての人の為に犠牲を捧げ奉仕する司祭になることを約束するつもりでしたが、叙階式のミサの時、奉獻の列にいる私の父親の姿を見て、この約束そのものが私自身の見せ掛けであったことに気付きました。父親は片方の足が不由な障害を持っています。私は父親の足の障害に何の手助けもしなかつたのです。ただ全ての人の為に司祭になろうと心に決めた私は、結局自分を現わすだけの司祭になろうとしていたのです。真の喜びと幸せは自分の生活の中が始まります。家庭の中に幸せがなければ、

主も存在しません。家庭の中に愛がなければ、主の十字架も飾りに過ぎません。先ず、家庭の中で愛を実践しなければなりません。

今日は聖靈降臨の大祝日です。聖靈の働きは、人間が神秘を見つめる奇異な現象ではありません。聖靈は謙遜であり、聖靈は愛であり、聖靈は分かち合いであります。このような聖靈の役割がお互いを一つにし、愛するように促します。

私たちは、この聖靈の炎をともされるのです。私たちにともされる聖靈の炎が、希望を失つた隣人に希望の光になるようにいたしましょう。



青年との集い

シリーズ  
小教区

## 魅力ある教会つて??



魅力ある教会とは、聖靈で満たされた人となれたイエス・キリストの人柄(柔軟と謙遜)が一人ひとりの信徒に満ち溢れ、集う全ての人が兄弟のような交わりを結び、愛と平和のうちに清々しく祈りができる場ではないでしょうか? 又、同時に集う信徒がミサや奉仕作業を通じ靈的、精神的に成長し、その達成感を共有出来る場であると思います。教会は、建物では無くキリストを信じる人の集まる場所で在ることは申すまでもありません。司祭と信徒や信徒間のコミュニケーションも大切です。

綾部教会の籍信徒数は、成67在籍で年齢構成は、18歳以下8名、19歳から50代21名、60歳以上34名と他の小教区と同様に少子高齢化の波をもろに受けています。主日のミサに与る信徒は、約3割でそ

古め主の食卓を囲み感謝の祭儀を祝っています。その様な現状の中で、魅力ある教会つくりの取り組みの一端を紹介させていただきます。

一、年度活動計画(宣教方針作り)は、司教年頭書簡をテーマに作成  
二、担当司祭による講座、講話  
①「信仰」ミニ講話(1回/月)

②典礼歴に対応したカトリック入門講座  
(春・秋・冬学期 毎木曜日各学期12回市民新聞で一般市民にも広く案内)

三、主日のミサの福音をテーマに分ち合い(1回/月)  
四、ミサと絶える御助けの信心会(1回/月)  
五、教会敷地内や靈園の美化作業等、今年は特に「信仰」に関わるテーマで取り組んでいます。

今年度の行動目標は、

- 一、自らを見直し、ほんまほんの信仰へと歩み出そう。
- 二、身近な人にキリストを証ししよう。
- 三、互いに伝えあう心を育もう。
- 四、小教区適正配置を考えよう。行動目標としています。

又、対外的な取り組みとしては、昭和61年の比叡山宗教サミットを受け綾部宗教者懇話会が発足して以来、メンバーとして他宗教との交わりの中で、昭和62年に第1回目の「平和を祈る綾部市民の集い」が綾部教会で開催されたのを皮切りに、他宗教の方達と一緒に世界平和の大半を60代でそ

り組みを行っています。昨年は、井上武師による平和祈願式典と記念講演が開催されました。カトリックが担当し教会での式典は、7回を数えています。小教区適正配置の取り組みに付いては、少子高齢化、次世代へのバトンタッチ等、以前から小教区の将来に不安を抱いていましたが、折しも適正配置に向けての該当小教区になりました。その指針①適正規模②建設問題③外国籍信徒④指針地域社会への宣教の4項目を踏まえ福音山、報恩寺、綾部地区の適正配置は、どうあるべきかを検討委員会を設け審議しているところであります。

以前からこの3教会は、1人の司祭が司牧されるようになって以来、典礼(聖なる過ぎ越しの3日間、復活の主日ミサ、ご降誕の深夜ミサ)講座(カトリックのいろは)、親睦行事(巡礼旅行・子供たちの行事・レクリエーション)等を合同で取り組んできており、信徒間は大変親しく交わっていますが、それぞれの教会の信徒は、今後の教会(聖堂)が無くなることへの不安や信徒の現聖堂(教会)の強い思いが有ります(因みに綾部教会からは、3人の神父と4人の修道女の召出しを受けています)。

小教区適正配置の指針を、信徒一人ひとりが理解し充分な検討を重ね信徒が集い易く、魅力があり福音宣教が出来る教会になりますように、3教会の信徒の皆さんと共に努力したいと思っています。新しい教会のためにお祈りください。祈りと感謝のうちに

カトリック綾部教会

評議員一同

地域福祉センター  
希望の家  
児童館

所長 前川 修

希望の家が、新しい施設に引っ越ししました。6月20日から引っ越しを開始し、地域福祉事業は27日から新施設で開始し、7月1日から児童館事業も新施設で開始しました。新しい施設は、旧希望の家から約50m西側にある、東岩本町市営住宅の1階になります。新施設の正式な名称は、京都市地域・多文化交流ネットワークセンターです。希望の家(地域福祉センター希望の家・希望の家児童館)と地域集会所、京都市地域・多文化交流ネットワークサロンが同居しています。京都市地域・多文化交流ネットワークサロンの運営は、京都市から希望の家に委託されていますので、日常的に新施設にいるのは希望の家の職員とボランティアの皆さん、そして利用者の皆さんです。



新施設の正式なオープンは7月1日でしたが、その前日の6月30日に大塚司教の司式により「希望の家新施設祝別式」がおこなわれました。当日は村上眞理雄師(カリタス会理事長)を始め、カリタス会関係者・ボランティアの皆さまが約40名参列し、厳粛な内にも心温まる祝別式でした。創立から今年で52年目になる希望の家ですが、神様の恵みの内に、新たな出発をすることが



出来ました。

希望の家は、1959年3月に京都市下京区屋形町(現在の希望の家より、約500m北側)にメリノール会のディフリー神父が創立しました。倉庫を改装した小さな施設は、利用する子どもたちによって、「希望の家」と名付けられました。翌年の1960年に、北岩本児童公園の西側(現在、希望の家カトリック保育園のある場所)に、米軍の払い下げのカマボコ型兵舎と平屋の建物を建設して移転しました。活動内容が増えたため、1965年に北岩本児童公園の南側に地域と教会からの寄付によって、建物を新築しました。この建物が46年間の長きに亘って、様々な活動の場となってきた希望の家です。

希望の家は、創立当初から「差別を無くす」ことを活動の目標にしてきました。現在も、多くの方が生きづらさを背負わされながら、生活する時代です。希望の家は、施設が新しく綺麗になりましたが、創立当初からの「差別を無くす」ことをこれからも目標に掲げながら、多くの方の「生きづらさ」に向き合っていきたいと思っています。これからも、よろしくお願ひします。



## 9月のお知らせ

## 教区

## 聖書委員会

## 聖書講座「出会いと回心一神に還るー」

日 時：7日㊁ 19:30／8日㊁ 10:30

テーマ：マリアとヨセフ

講 師：北村 善朗師

日 時：21日㊁ 19:30／22日㊁ 10:30

テーマ：ペトロとパウロ

講 師：澤田 豊成師(聖パウロ修道会)

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

## よく分かる聖書の学び

日 時：28日㊁ 10:30

講 師：北村 善朗師

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

参加費：300円

問合せ：Tel.075(211)3484 ㊁㊁

## 地区協議会

## 奈良カトリック協議会

## 聖書講座

## 「キリストの信仰を支える旧約のことば」

9日㊁ 19:00 大和郡山／10日㊁ 10:00 奈良

テーマ：イザヤ40～66章

講 師：大塚 喜直司教

23日㊁ 19:00 八木／24日㊁ 10:00 奈良

テーマ：イザヤ1～39章

講 師：キース・タロク師(マリスト会)

## 小教区・修道会

## 伏見教会

## 献堂60周年記念チャリティーコンサート

日 時：18日㊁ 16:00

会 場：伏見教会

出 演：川畠成道(サイド)宮本聖子(ピアノ)

料 金：一般2,000円、中高生1,000円、

小学生以下無料

送金先：東日本大震災被災地

## 男子カルメル修道会(宇治修道院)

## 一般のための黙想(九里 彰師)

日 時：3日㊁ 17:00～4日㊁ 16:00

テーマ：人をゆるすこと

参加費：6,300円(宿泊なし参加可)

## 社会人(働いている人のための靈的同伴

日 時：9日㊁ 20:00～10日㊁ 15:00

参加費：5,500円／(松田 浩一師)

## 水曜黙想(松田 浩一師)

日 時：14日㊁ 10:00～16:00

テーマ：私たちの生活とキリストの十字架

参加費：2,700円

## 聖テレーズの黙想(Sr.伊徳信子)

日 時：30日㊁ 17:00～10月1日㊁ 16:00

参加費：6,300円

## 聖ドミニコ女子修道会(京都修道院)

## ロザリオを共に祈る会

日 時：16日㊁ 10:30～12:00

## みことばを聴こう！

日 時：24日㊁ 14:00～16:30

テーマ：今、エックハルトとともに

神の慰めを味わう

指導：松田 美佳氏(花园大学非常勤講師)

対象：青年男女／締切り：20日㊁

会費：300円(プリント代)

住所／京都市上京区河原町通今出川下る

梶井町448 Tel.075(231)2017

## ノートルダム教育修道女会(唐崎修道院)

## 召命黙想会＜神を信じて生きてみる＞

日 時：17日㊁ 15:00～18日㊁ 15:30

テーマ：神の願いを知る

指導：山内 十束師(御受難会)

対象：独身女性信徒／費用：2,000円

締切り：11日㊁

申込み：Tel.077(579)2884 Fax.(579)3804

## 諸団体

## 京都カトリック混声合唱団

練習：11日㊁／24日㊁ 18:15 ミサ奉仕後  
カトリック会館 6階

## 京都カナの会

例会：4日㊁ 13:30(結婚相談室)

カトリック会館 6階

## コーラ・チェレステ(女声コーラス)

練習：8日㊁／22日㊁／29日㊁ 10:00

カトリック会館 6階

## 聴覚障がい者の会

手話ミサと交流会：9日㊁ 11:00～14:00

参加費：1,000円(弁当代他・どなたでも参加可)

手話表現の学習会：13日㊁ 13:00

どちらもカトリック会館 6階

問合せ：Tel&amp;Fax.075(925)6726 西田

## 心のともしび 番組案内

テレビ(衛星.CATV)スカイA スポーツプラス

毎週土曜日 朝 8:45(10日は 7:45)

今井美沙子氏(ノンフィクション作家)

シリーズ「ふだん着の信仰」

ラジオ(KBS京都)㊁～㊁ 朝 5:15

9月のテーマ「働き」

## 「一万匹の蟻運動」基金報告

累計 57,148,680円(7月19日現在)

## 教区広報委員会からのお知らせ

※ お知らせに載せたい情報は、原稿締切り日までに教区広報委員会宛にFax.075(211)4345か kouhou@kyoto.catholic.jp に発信者のお名前を明記してお寄せください。

※ 11月号の原稿締切り日は9月28日㊁です。

担当：大森

## 大塚司教の

## 9月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka



- 1日(木) 10:00 中央協 常任司教委員会
- 3日(土) 11:00 伏見教会 献堂60周年記念  
感謝ミサ
- 4日(日) 13:00 京都南部地区 山城ブロック  
司教訪問(青谷)
- 6日(火) 15:00 青少年委員会
- 8日(木) 10:00 津カトリック保育園 竣工式
- 9日(金) 19:00 奈良地区 聖書講座(大和郡山)
- 10日(土) 10:00 奈良地区 聖書講座(奈良)
- 11日(日) 13:00 三重地区 南部ブロック  
司教訪問(松阪)

## —今年もあるよ♪ YES2011—

西舞鶴教会 白濱みゆき

YESとはYOUTH、ENJOY、ENCOUNTER、SPACEということで青年が楽しんだり、交流したりする場所として毎年開催されています。昨年は「愛」、一昨年は「童心にかえろう」というテーマで仲良くなるためのレクリエーションをしたり、分かち合いをしたりしています。

この集まりに参加することは、日頃考えないことを考え、他人の考えをじっくり聴いて、また日常に戻ることになります。多くのことはしていないのに、刺激があったなあと思えます。

今年は、11月12、13日に高の原野外礼拝センターにて行います。初めてのひと、おひさしぶりのひと、毎年参加しているひと、そんな「場所」を青年センターは提供しています。

[青年センターHP] 携帯からでもご覧いただけます。 <http://www.kyoto.catholic.jp/seinen/>

13日(火)~20日(火) 教区司祭 年の黙想

(当別トラピスト修道院)

23日(金) 13:00 広島教区 前田万葉師

司教叙階式

(幟町教会司教座聖堂)

25日(日) 13:00 京都北部地区 宮津ブロック  
司教訪問(網野)

27日(火) 14:00 福音宣教企画室 会議

29日(木) 13:30 第1回「求道者に同伴する信徒」  
養成講座(河原町)

カトリック司教協議会  
東日本大震災復興担当者会議と  
視察の報告

2011年7月11日~12日  
「全国の教会が被災沿岸部を支援するプロジェクト」として全国の各教区から担当者が集まり、会議と視察を行った。

大阪教会管区は宮城県の大船渡、気仙沼、米川、石巻のベースを中心として支援することになっている。また、築館と大船渡に司祭を派遣することになっており、築館は大阪教区で大船渡は京都教区の森田師が派遣されることになった。

今後は、各教区で考えながら進めていくことになるので、皆さんのご協力をお願いいたします。

京都教区担当: 清富洋三



青年センターあんてな

